

第4章 対象事業の事業予定地及びその周辺地域の概況

事業予定地は図 1-4-1 に示すとおり名古屋市港区及び南区に位置し、現在は河川（大江川）であり、その周囲は工場や運輸施設が立地する地域となっている。

事業予定地周辺の主要な道路としては、名古屋高速 4 号東海線、名古屋高速 3 号大高線、一般国道 23 号及び 247 号、主要県道名古屋半田線及び諸輪名古屋線等が通っており、鉄道は名鉄常滑線及び築港線、臨海鉄道東港線及び東築線が通っている。

事業予定地周辺の施設としては、東側に大江川緑地があり、市民の憩いの場となっている。

事業予定地及びその周辺地域の概況を把握する範囲は、工事中の大気質の影響と街区を考慮して、表 1-4-1 及び図 1-4-2 に示す区域（以下、「調査地域」という。）を設定した。

表 1-4-1 調査地域

区名	学区名
港区	東築地学区の一部
南区	星崎学区の一部、大生学区の一部、宝学区の一部、宝南学区の一部、白水学区、千鳥学区の一部、柴田学区

以降は、この調査地域を中心に、事業予定地周辺の地域特性を「自然的状況」及び「社会的状況」に分けて整理した。

資料の整理に当たっては、町（大字）の区分ができるものについては町（大字）ごとに、区の詳細データしか得られないものについては区ごとに行った。

資料の収集は、令和 4 年 3 月末の時点で入手可能な最新の資料とした。



図 1-4-1 事業予定地とその周辺地域



図 1-4-2 調査地域図

4-1 自然的状況

(1) 地形・地質等の状況

ア 地形・地質

(7) 地形

a 陸 上

調査地域及びその周辺の地形は、図 1-4-3 に示すとおり、盛土地、干拓地等からなる低地である。

なお、大江川の変遷及び現状については、第 2 章 2-2 (2) ア「大江川の変遷及び現状」(p. 2 参照) に示すとおりである。

また、名古屋港の埋立完成年の状況は、図 1-4-4 に示すとおりである。

調査地域の埋立地部分は、明治 34 年から埋立てが行われた区域であり、事業予定地の周辺に位置する大江ふ頭及び昭和ふ頭は、明治 34 年から昭和 56 年にかけて埋立てが行われた区域である。なお、事業予定地は、将来計画の区域となっている。

b 海 底

調査地域及びその周辺の海底の地形は、図 1-4-5 に示すとおりであり、事業予定地付近の海域の水深は 6～10m 程度である。

c 川 底

大江川の河口付近の川底の地形は、図 1-4-5 に示すとおりであり、水深は 0.5～8m 程度である。調査地域及びその周辺の山崎川河口、天白川河口及び昭和ふ頭と船見ふ頭の間には、干出浜が存在する。

(イ) 地 質

a 陸 上

調査地域及びその周辺の表層地質は、図 1-4-6 に示すとおりであり、埋立地、砂・泥を主とする層等からなる未固結堆積物である。

b 海 底

調査地域及びその周辺の海底の地質は、図 1-4-5 に示すとおりであり、調査地域及びその周辺の海底の地質は、泥及び細砂等である。

c 川 底

事業予定地の位置する大江川の河口付近の川底の地質は、図 1-4-5 に示すとおりであり、泥である。

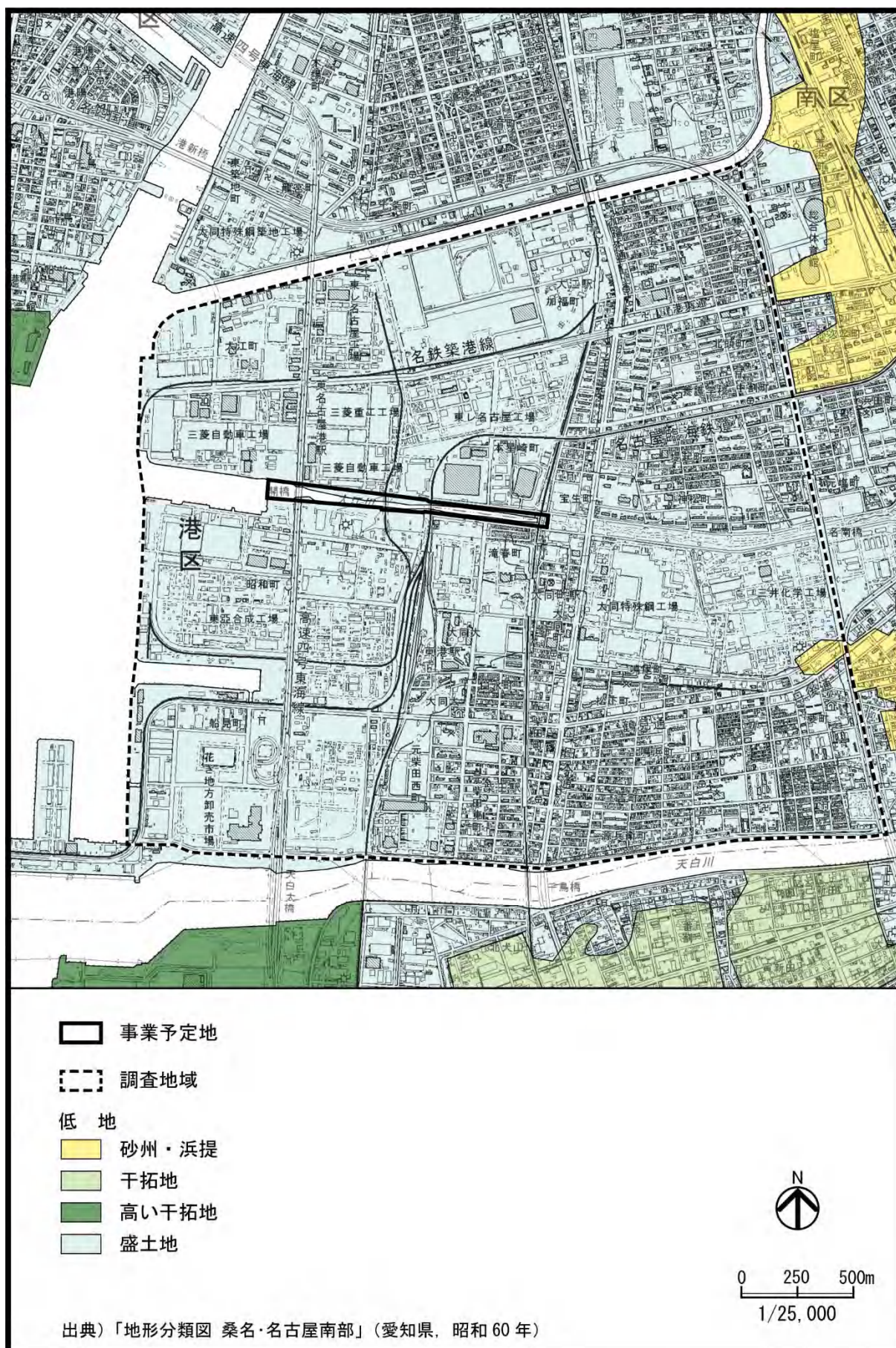


図 1-4-3 地形分類図

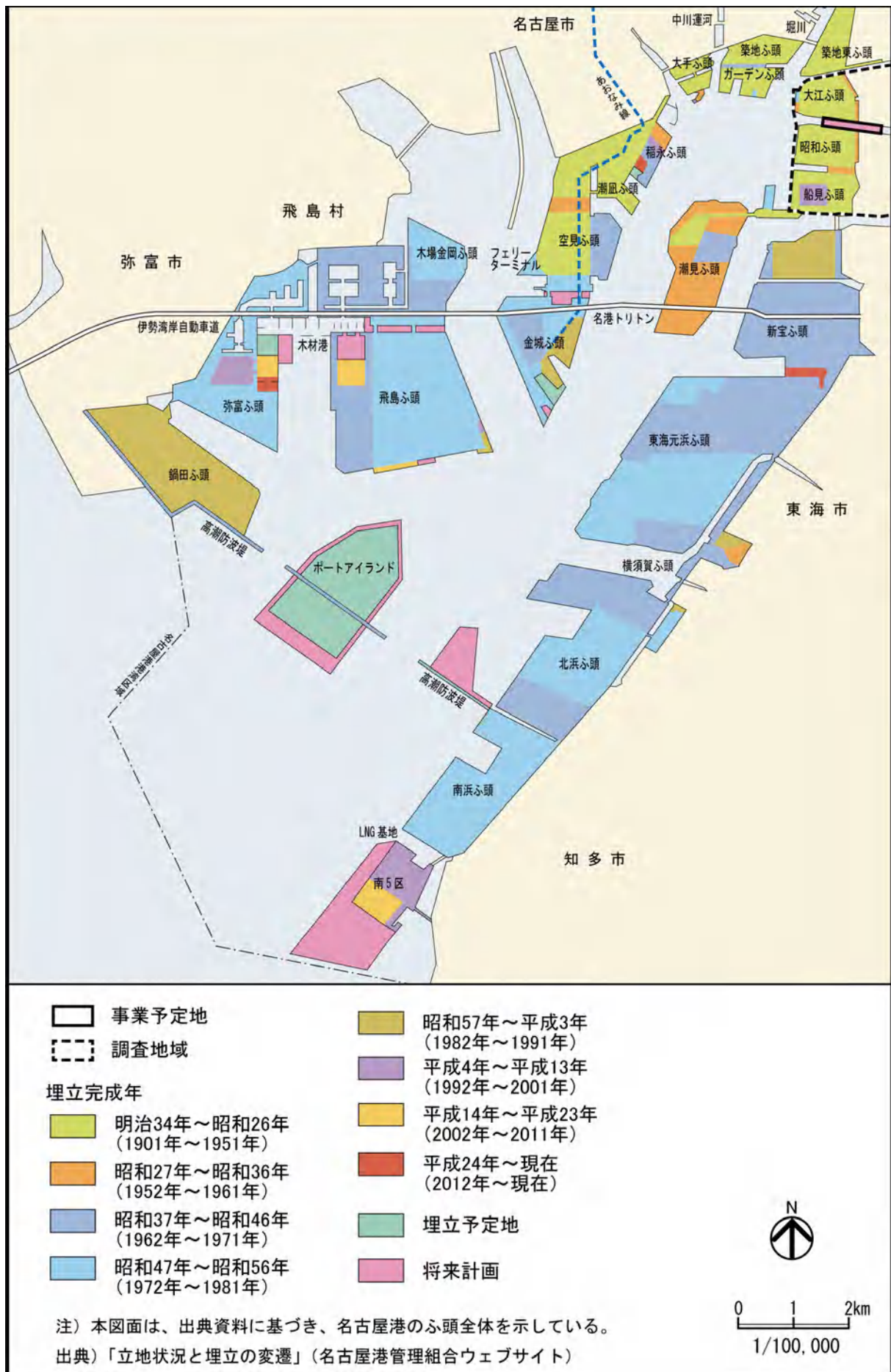


図 1-4-4 名古屋港の埋立完成年の状況

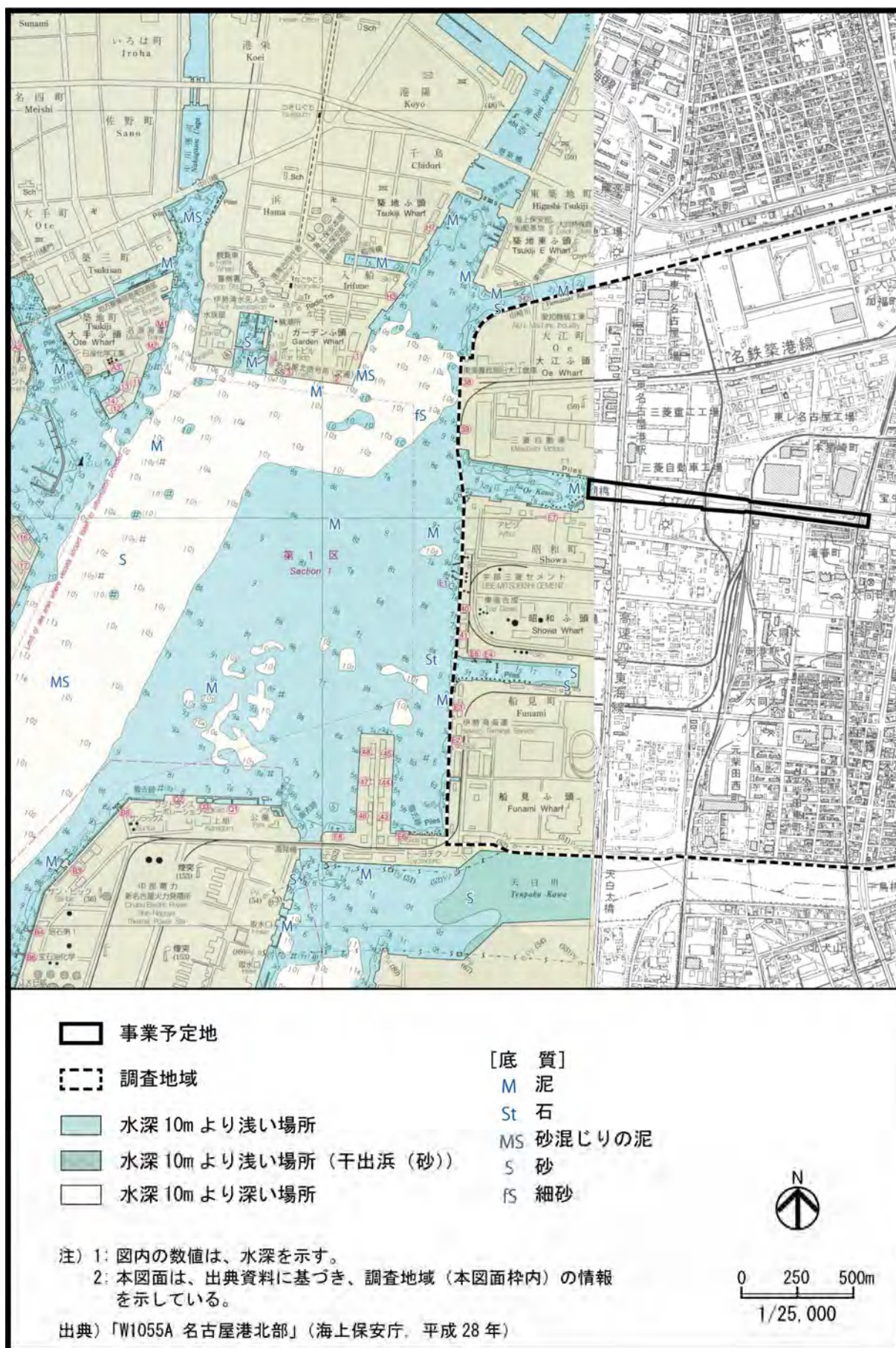


図 1-4-5 海底の地形及び地質図

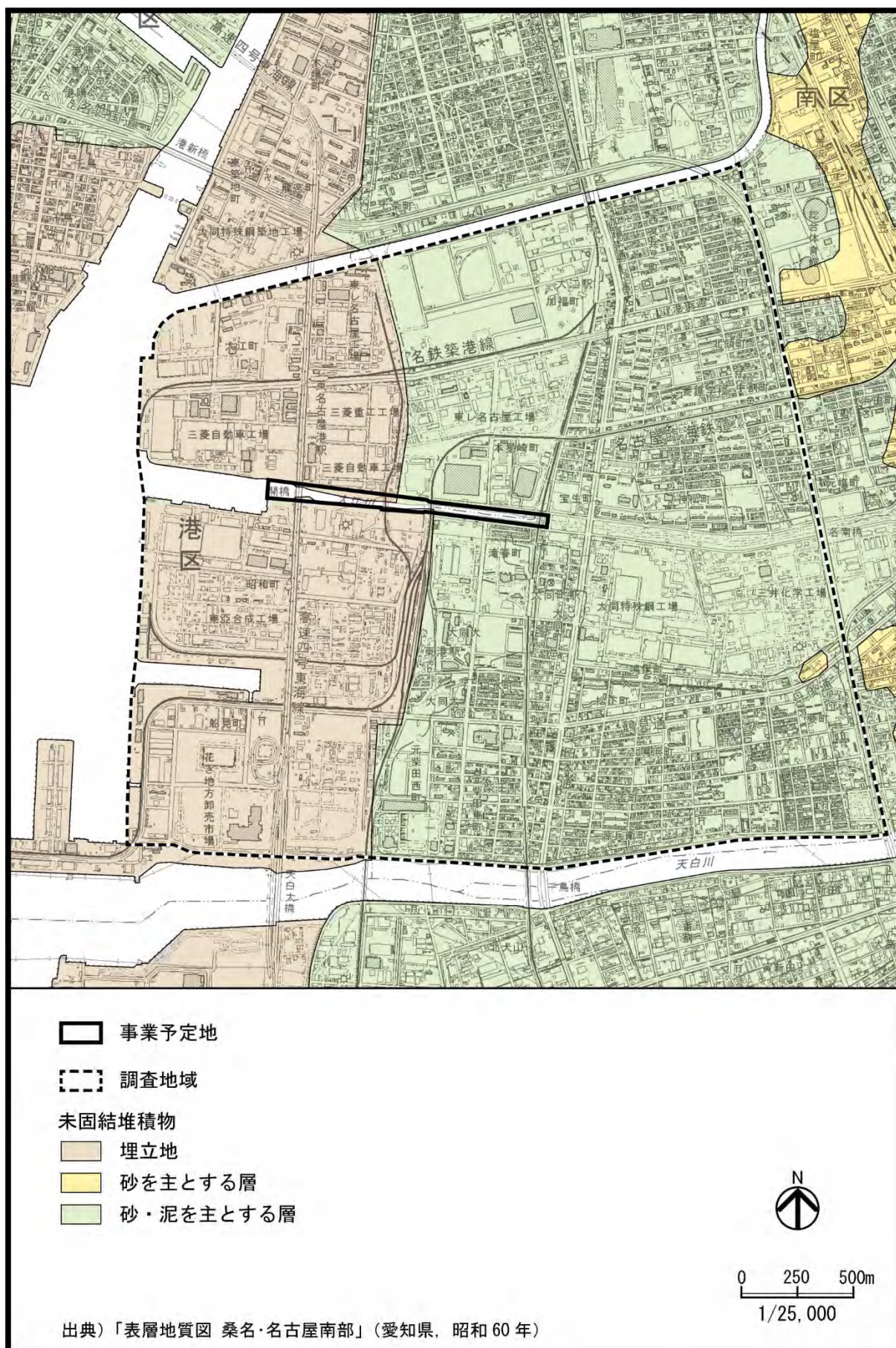


図 1-4-6 表層地質図